

南沢に入ると滝が次々に出てきた。まずはF₁ 8m。右側を直登し、ザイルを出して後続の二人を確保する。続くF₂ 8mも右を直登して、後続の確保にあたった。F₃ 10mは、手前にスノーブリッジがあり、これを渡って右より捲いた。F₄ 6mは直登し、次のF₅ 5mは、左側をトラバース気味に登る。F₆ 10mを簡単に越えてしばらく歩いた所でようやく二俣となった。

二俣から予定通り左俣に入る。すぐゴルジュ状となって、F₇ 3mが掛かり、直登する。この先小滝がいくつもかかるが、そう苦勞することもなく通過してゆく。

F₈ 4mを越えるとスノーブリッジが出てきた。下に滝が見えていたが、スノーブリッジ上を通過する。やがてF₉ 10m。中間から取り付こうとしたが、ザイルなしではちょっと不安があり、左岸を小さく捲いて上に出、ザイルを出して後続の2人には直登させた。F₉でも後続の確保にあたる。

ナメや小滝を越えていくと、やがて沢は雪渓で埋まり、ずっと雪の上を歩くようになる。後続の登山道めざして登るが、登山道まではかなりの距離があった。

(記)

[タイム] 甲子温泉(8:20)→南沢出合(6:50)→二俣(8:35)→沢終了(11:40)→登山道(12:40)→甲子山(13:00)→甲子温泉(14:40)

白水沢右俣

1984年6月2日

L

甲子温泉手前の道路脇に車をデポし、南沢に入る尖戸・兼子・佐藤の3人と分かれて白水沢に向かう。

旅館の前を通り少し下って本谷を渡ると、白水沢F₁が見えてきた。F₁手前で右岸の岩が崩れてしまっていて、F₁に直接取り付けず、手前の小滝の下に降り、小滝を越えてから右岸に取り付く。本格的に沢に取り組むのは

初めてなので、最初のF₁の10m程の高さと水の勢いに足がガクガクしてしまったが、登りきってみると、上は思った程水量も多くなく、ゆるやかで、まずはホッ！

すぐにF₂が現われるが、5m程で、ホールドもしっかりしており、落下しても大丈夫だと思ひ、気楽に登れた。

F₃は、よくみがかれた垂直の滝である。滝の途中に岩がでっばっているの、水がヒョーンとはねていて、おもしろい。西さんの話では、「ひょんぐりの滝」と呼ばれているそうだ。

大きめの滝を流を続けて3つも越したので、「やれやれ、ちょっとナメを歩きたいな」などと思っていると、2段になった10m程の大物(F₄)が現われ、ギョッ！ワラジの感覚がまだよくつかめないの、やや不安だったが、しっかりしたホールドがたくさんあり、なんとか登りきれた。

そのあと2つ程大きめの滝を過ぎると、とたんに1~2m程の小滝ばかりになり、単調な感じとなるが、ねらい定めた石や木の上をびよんびよんとんで、時たまバランスをくずしてずっこけたりするのも、なかなか楽しい。日本庭園も美しいが、この自然の妙味にはかなわない。

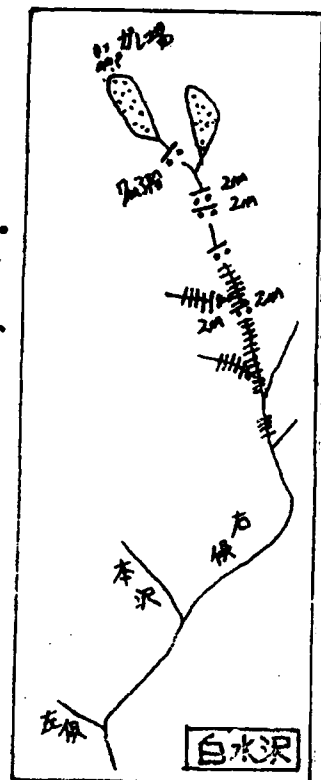
滝と滝の間隔も次第に開いてきて、やがて最初の二俣(左俣出合)となる。左俣はすでに調査済みで、今回は右俣の調査が目的だ。右俣の方が川幅も広く、水量も多い。

少し行くとすぐにまた二俣(本沢出合)である。右俣にルートをとる。

このあたりは割と平凡な沢筋で、あまり滝もかからない。山菜が豊富で、右へ左へと寄り道しながら採取してゆく。結局ザック一杯になり、私などは山菜とりに夢中になって、あとでルートを思い出すのに苦勞して減点。

次の二俣では、右側は雪渓がかぶさっていたし、左の方が幅も広く、おもしろそうだというので、左へ。10分程でまた二俣。やはり右は雪渓で埋まっているので、左へルートをとる。

やがて、2m程の小滝をまじえて、ナメが続くようになる。段々と傾斜はきつくなっていくものの、ワラジが岩にすいつくような感じで、なんなくピタピタと登っている。カップにでもなったような気分で、とても楽しい。



やがて川幅もだんだんせばまって、木や土砂が沢筋へなだれ込んで障害になり、歩きずらくなってくる。ここを過ぎると雪渓が目立ってきた。

やや行くと、また二俣となる。右は雪渓で埋っており、左は2m程の小滝が3つ連なっている。左へルートをとる。1段目は簡単に越える。しかし、2段、3段目は岩がボロボロで直登を断念。左側のブッシュへ逃げて、木の根や笹などをつたって上へ出る。

この先は雪渓となる。傾斜があるので、滑ったら一気に落ちてしまいそうなので、慎重にキックしながらよつんばいになって登る。せっかく軍手を持って行ったのに、コロッと忘れてしまい、手は冷たいわ、つま先は痛いわで、又々減点。

やがて上方に林道のガードレールが見えてくる。そしてようやく雪渓を乗り越えてガラガラの岩場に出た。直登すればすぐなのだが、安全策をとって回避することにして、左側のブッシュに入る。少し進んだら、ガレ場だが傾斜のゆるい所に出たので、浮石に注意しながら登り、林道に出る。

まずは万歳。小休止してから甲子山に向かい、南沢に入ったパーティと合流して甲子温泉に下山する。

(記・

[タイム] 甲子温泉(6:15)→左俣出合(7:45)→林道(12:00)

5. 那須・旭沢(仮称)左俣、 旭直沢(仮称)、ニゴリ沢左俣

1984年6月29日～7月1日

L

6月30日 観音沼(5:00)→旭沢出合(5:15, 6:15)→二俣(6:20)→左沢出合(8:35)
→遊行終了(9:35)→旭直沢下降開始(9:45)→旭沢右俣出合(13:20)→左俣出合(13:35)→幕営地(13:50)

前夜、観音沼のほとりで暮ら合い、テントを張って寝た。朝起きて直ちに車に乗り、旭沢(仮称)出合まで入って、朝食の後出発。

めざす旭沢(仮称)は、出だしから砂防ダムの連続であった。大峠へ向かう林道が沢を横切る地点が二俣まで約10個、切目なしに繋いでいる感じである。最初は右岸のブッシュの中を越えていたが、そのうち左岸に林道がのびているのをみつけ、沢筋を見ながら一気に足をのぼす。林道は二俣を経て、右俣に少し入った所までの